

認知症と言われる病気

～どんな病気があるの？～

認知症とは脳に様々な障がいが起こり、日常生活を送ることに支障が出てくる病気です。

○認知症を引き起こす主な病気

- アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症は脳の細胞がゆっくりと壊れて萎縮します。



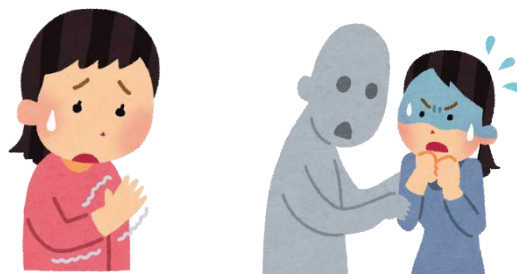
★アルツハイマー型認知症

- ・覚えられない、すぐに忘れるなどの記憶障害が主な症状
- ・いつ、どこ、誰などがわからなくなる見当識の障害
- ・妄想（物が盗まれたなど）、徘徊などの行動・心理症状（BPSD） など



★レビー小体型型認知症

- ・手の震え、筋肉のこわばり、動作が遅くなるなどのパーキンソン症状
- ・実際はないものや人が見えるなどのリアルな幻視 など



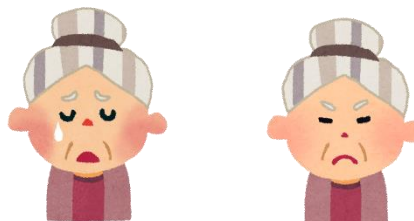
★前頭側頭型認知症

- ・我慢したり、思いやりなどの社会性を失うルールから外れた望ましくない行為（万引きなど）が見られる
- ・同じことを繰り返す言動や行動がみられる など



★脳血管型認知症

- 脳梗塞などのため、血管が詰まって一部の細胞が壊れておこるもの
- ・記憶障害が目立つが判断力、理解力は維持されるなどのみだら認知症と呼ばれるもの
- ・ささいなことで泣いたり、怒ったりする感情失禁 など



認知症の症状別のケア



★アルツハイマー型認知症

(症状)

- すぐに忘れたり、覚えられず、何回も同じことを聞く
- 財布を盗まれたなど（妄想）と言う
- 考えるスピードが遅くなる
- 二つ以上のことが重なると上手く処理できない
- 料理の手順がわからなくなる
- 徘徊



など

(ケアのポイント)

- カレンダーやメモ帳などを利用して確認できるようにする
- 否定はせずに話を合わせ、話題の繰り返しに怒らない
- 急がせない、シンプルに伝える
- そばで見守り、戸惑ったときなど声をかけて一緒に行く
- 名前や連絡先などを服に貼っておく、SOS ネットワークを活用する など

★レビー小体型認知症

(症状)

- 手の震え、筋肉のこわばり、動作が遅くなるなど
- 実際はないものや人が見えるなどのリアルな幻視



(ケアのポイント)

- 動作がゆっくりでも急がせない
- 転倒の予防をする
- 本人には見えているため、否定せず話を合わせて安心させる など



★前頭側頭型認知症

(症状)

- 我慢したり、思いやりなどの社会性を失うルールから外れた望ましくない行為（万引きなど）が見られる
- 同じことを繰り返す言動や行動が見られる

(ケアのポイント)

- 病気であることを理解する。落ち着ける環境を作る。相手の行動を真似るので笑顔で接することを心がけ、ジェスチャーなどを交えながら優しく接する
- 無理矢理にやめさせようとせず、時には見守る など



★脳血管型認知症

(症状)

- 記憶障害が目立つが判断力、理解力は維持されるなどのみだら認知症
- ささいなことで泣いたり、怒ったりする感情の調整が上手くいかない状態 など



(ケアのポイント)

- 一日の中で波があることを理解する
- 感情の変化のポイントに注意する
- 身体能力が徐々に低下するので、本人の確認が可能うちに本人の意思や今後の対応を話して合っておく





認知症の症状に最初に気づくのは本人です。



物忘れによる失敗、家事や仕事が上手くいかなくなるといったことが多くなり、何となくおかしいと感じ始めます。認知症特有の「言われても思い出せない物忘れ」が重なると、本人が何かが起こっていると不安を感じ始めます。誰よりも一番心配なもの、苦しいのも、悲しいのも本人です。

認知症の方を介護している方へ

家族が認知症になったとき、誰しもショックを受け、戸惑い、混乱に陥ります。認知症の人のあるがままを受け入れられるようになるためには介護者の気持ちの余裕が必要です。

介護者の余裕は、認知症の方本人や家族に対する周囲からの理解や支援と介護サービスの適切な利用などによって得られると考えられます。そのため、一人で悩まずに相談しやすい方、医療や福祉の相談窓口にご相談ください。



認知症に関する相談窓口

●認知症初期集中支援チーム
(たんとサポートチーム)

●認知症地域支援推進員

●東根市地域包括支援センター 中央

●東根市地域包括支援センター しろみず